



小諸市営火山館館長

神田 恵介さん (70歳)

湯の平



浅間の山の神を祀る祠のかたわらに、誰が名付けたか今となっては定かでないが明治初期には『火山館』という山小屋ができていた。山小屋は山岳信仰を持って浅間山頂を目指す人や、数少ないレクリエーション活動で登山を楽しむ人々の休息の場として重宝がられていた。現在の市営『火山館』もこの地(火口から2.3km地点)にある。小諸市湯の平、と地図に載っているこの場所は林野庁の地割りでは「北佐久郡御代田町大字塩野字浅間山国有林167林小班」となっていて、人が山を管理する苦労がにじみ出るような名称になっ

ている。

平成十一年に設置された市営『火山館』で、当初から館長を務めている神田恵介さんは設置のいきさつを次のように話した。「当時は白馬山荘で登山者の世話をする仕事をしながら、登山を楽しんでいました。浅間山の『火山館』が利用に耐えないほど老朽化していたので、折に触れては小諸市役所に建て替えの必要を訴えていました。小諸市民の登山規制緩和を求める活動が盛んになってきていると知り、協力し合うようになりまし」その結果が市営『火山館』で登山者の休憩場所と緊急避難場

(シエルター、百二十人収容)の機能がある。館長は常駐ができる神田さんに決まった。市民グループはその後『浅間山クラブ』を結成して、神田さんの活動を支えている。

神田館長は「自分が山にいるのは注意喚起のため」と言っていて、丸一日山を空けるのは年間で五日ほど。その「注意」とは「命を守れ。命を捨てるな。貴重な動植物を傷ついたり盗んだりするな」ということで、にらみを利かせている。不審な人に会えば盗まぬよう、死なぬように巧みな雑談で「気をそらして、下山させる」。神田さんは「山男、山女なら皆がそうする」と言うが、手本の山男なのだろう。

山の一人暮らしは厳しく忙しい。必要な薪を準備するのは「浅間山クラブ」メンバーに協力をあおぐ大仕事だ。黒斑山から引いてくる水が途絶えたら水路の点検に行く。直らなければ雪を溶かして使う。備品や設備の修理も怠らない。食事は「浅間山クラブ」の人たちが運び上げてくれたものを工

夫して料理する。食材についてはリクエストをしない。神田さんは古書店巡りがしたくて、神田神保町にあった喫茶店で二十年ほどマスターをしていた。今は読書をする時間が少ないと話す。ギターの練習は続けている。

浅間山にいる人は登山者ばかりではない。多くの研究者が滞在している。研究の対象は火山や動植物だ。その一人、カモシカの研究者は言う「神田さんはね、入山者の無事な下山を必ず確認しています。小諸の皆さん、もったいないですよ。浅間に親しんでください。眺めは美しい箱庭のようですから。火山館で山のことを教えてもらってください」。この研究者はフィールドを富士山に移してからも神田館長に会うため、浅間登山を続けている。

「山にいただけで幸せを感じる」という館長が仕事を辞めた後に備え、里に家を買った。当面は山で親しくなった研究者たちに便利に使ってもらおうつもりだ。

(取材・文 佐藤万千子)

ゆらさんの四季の薬膳

春のトラブルと「気」

「目に青葉」の気持ちの良い季節到来です。「気持ち」を初め「気楽」「気分」「気休め」など、日本語には「気」に関する言葉がたくさんあります。ところで、「気」って何でしょう。中医学では、からだの維持に必要な生命エネルギーのことをいいます。各臓腑の気はからだの生理的活動にかかわっているのですが、春は気が上にあがりやすく、肺の気が上がると喘息や呼吸困難を起こし、胃の気が上がると嘔吐やげっぷ、しゃっくりなど。肝臓の気が上がるとイライラや怒り、目赤などの症状が起きます。

気を下げる身近な食材の筆頭が大根で、嘔吐や痰のある咳、消化不良を感じたらぜひお試しを。大根の消化促進効果はよく知られていますが、他にも血栓の予防、解毒機能を強化するなどのパワーが。大根の他にもかぶ、にら、ラッキョウ、ラディッシュ、グレープフルーツなどにも気を下す作用があるので、ぜひお試しを。

(国際中医薬膳師 清水由良)

